

Birds of a feather
flock together.
(類は友を呼ぶ)

Triangle

令和4年 9月 9日
富江中学校 第10号
校長 山上 福範

旬感作文

抜粋



★「職場体験学習で学んだこと」

2年 川崎

私が選んだ職場は、社会福祉協議会という、おじいちゃんおばあちゃんを介護する所です。私がとても心に残っているのは、利用者のある女性です。

その方は、右腕が使えないので、リハビリとして、左手でごみ箱を折っていました。両手を使っても、折り方が難しいところがたくさんあるのに、左手だけで綺麗に折っていました。私はこの時、自分にハンディキャップがあっても、自分なりに考えて、できることをしようとするその方をとてもすごいと思いました。

パラリンピックには、義足を付けて活躍している選手もいます。何かを失っても、諦めず何かをしようとする人たちがとてもカッコよく見えます。

利用者の女性も、諦めずできることをしたい、とっていたと思います。たくさんの方がリハビリをしたり、体操をしたりしていました。自分に負けず、もっと元気でいたい、その思いが伝わってきました。

私は、陸上をしています。辛い練習もたくさんあります。記録が思うように伸びず、悩むこともあります。しかし、諦めず、自分に負けずに、挑戦して行きたいです。

★「富江中野球部ラストゲーム」

3年 柿本

「プレーボール」僕たちの最後の夏が始まった。と同時に、学校として最後の試合だった。

第1試合は勝利した。第2試合の1回表、チームに3点が入った。ここまでは順調だったが、すぐに逆転され、流れも相手チームに持って行かれていた。この回で流れを変えたいと願っていたところで、チームに2点が入った。流れを変えたのは、皆からたくさん教えられていた選手だった。とてもうれしかった。しかし(試合途中で)故障者が続出してしまい、試合は終わった。

皆に謝りたい。顧問や保護者には、今までしていただいた指導やサポートに感謝し、優勝を逃したことを謝りたい。そして、一番謝りたいのは唯一の2年生部員だ。頼りない先輩と、辛い練習も笑い転げてやってきたのに、最後に優勝させてあげられなくて悔しさで一杯だ。

学校の名前を背負っての試合は終わったが、今年3年ぶりに離島甲子園が佐渡島で開催される。最後の最後は、謝るのではなく、笑顔でうれしい報告ができるようにしたい。



★「富江中野球部ラストゲーム」

3年 貞方

僕たちの代で終わりとなる野球部の歴史を優勝という形で終わらせたかった。しかし、中総体で敗れた学校に、1点差で負けるという悔しい結果で終わってしまった。試合を終え、自分は結果を残せず、チームの皆に助けってもらってばかりだったことが一番悔しかった。

野球部員として学んだことは、チー

ム全員が元気を出し、努力をしたら、実力が上のチームにも、いい勝負ができるということ。

これまでお世話になった人たちがたくさんいる。保護者の方々、コーチ、顧問だった3人の先生。それぞれに感謝の気持ちを伝える。

保護者のみなさん、練習を見守り、試合では力強い応援をありがとうございます。コーチ、練習で困っていたら細かく教えてくださり感謝しています。最後に、顧問の先生方、野球だけでなく、学校生活の中でも心配してくださり、ありがとうございます。

最後の大会を終え、練習した努力が実らなかったのは残念だが、今回の試合は、みんなが活躍できてうれしかった。

★「富江中野球部ラストゲーム」

3年 濱口

「僕、別に勝ちたいとは思ってないんだ。」と試合4日前にチームメイトに話していた。中総体で負けて、やる気をなくしてしまっていたからだ。すると、「学校のユニフォームを着てプレーするのは最後だし、勝ちたいと思っている人たちもいるから、最後まで全力でやってほしい。」と言われた。

そこで僕は自分のことしか考えてないひどい奴だなと反省した。周りに迷惑はかけたくないとも思い、ラストゲームまで残りの日数は少ないが、部活動に全力で取り組んだ。全力でやっていくうちに、楽しくなって、最後の練習まで頑張ることができた。

初戦は代打でランニングホームランを打ててうれしかった。みんな声

をたくさん出して、いい雰囲気でも勝つことができた。

決勝は、初回に中総体と同様に、3点を先制して好発進が切れた。しかし、3回で満塁ホームランを打たれ、あっという間に逆転を許し負けてしまった。とても悔しかった。

これで野球部は終わりだけど、みんなでも野球ができて良かった。今まで支えてくださった親や先生、コーチにたくさんの感謝の気持ちを伝えようと思う。



★「富江中野球部ラストゲーム」

主将 3年 福田

中総体が終わってから気持ちを切り替えて、今まで以上に練習を頑張った。自主練習では手の皮が剥け、バットを持つのも痛かったけど、試合で打てるように毎日頑張った。

僕はキャプテンとして、まとめるのも下手で、自分の言葉で伝えることもできず、チームに迷惑をかけてきた。でも、試合で一人一人が全力を出せば、キャプテンの自分だけが頑張らなくてもいいんだと分かった。

最後の試合は、自分史上全力を出して、いい試合だったと思う。でも、一方で、もっともっと練習でやっておけば良かったと悔いも残った。

僕の家族は野球が大好きだ。両親は、試合の度にビデオを回し、弟は、そのビデオを編集して、チームメイトに配信している。その家族に離島甲子園で活躍する姿を見せたい。

今まで支えてくれた監督、コーチ、保護者に感謝し、自分史上全力の更新をする。五島代表として恥ずかしくない試合をし、チームのことを考えて行動したい。

(離島甲子園大会出発前の作文)